

## 平成 18 年度身近な野生生物の観察事業 ～ こどもエコクラブを対象とした「ExTEND 野生生物観察隊」～ について

### 1. 参加クラブ

- (1)平成 18 年度は、昨年度の結果を踏まえ、調査開始時期を早め 7 月から開始した。
- (2)こどもエコクラブ(全国で約 4,000 クラブ)を対象とし、ホームページ上で「ExTEND 野生生物観察隊」の参加募集を行った。
- (3)応募のあったクラブの中から 28 クラブを環境省と事務局で協議のうえ選定した。  
(参考 1)
- (4)参加にあたっては、観察調査を 3 回以上実施し、中間報告レポート及び最終報告レポートの提出を条件とした。

### 2. 観察準備会

観察準備会を平成 18 年 7 月 1 日(土)に開催した(参考 2)。選定した 28 クラブのサポーターに指導委員による助言が行われた。

### 3. 平成 18 年度スケジュール

#### 平成 18 年

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| 5 月 2 日～ 6 月 2 日 | 環境省ホームページにて観察調査参加クラブを募集 |
| 6 月 5 日          | 参加クラブ決定                 |
| 7 月 1 日          | 観察準備会開催                 |
| 7 月 7 日          | 各クラブから調査計画書を提出          |
| 7 月上旬～ 11 月末     | 観察調査実施< 3 回以上 >         |
| 9 月 8 日          | 各クラブから観察調査の中間報告レポート提出   |
| 12 月 4 日         | 各クラブから観察調査の最終報告レポート提出   |

#### 平成 19 年

- |               |                                     |
|---------------|-------------------------------------|
| 1 月下旬         | こどもエコクラブ全国フェスティバル参加 3 クラブを決定        |
| 3 月 24 日、25 日 | こどもエコクラブ全国フェスティバル(横須賀市で開催)特設ブースにて報告 |
| ～年度末          | 平成 18 年度調査報告書とりまとめ                  |

## クラブ名簿

クラブ名	人数		クラブ所在地	クラブ紹介
	メンバー	サポーター		
1 こどもエコクラブくしろ	8	3	北海道釧路市	1996年6月発足。地域にある自然をエコ活動の場として、多様な活動を積極的に展開しています。2003年度からは、小・中学生の混合クラブとしてエコ活動に取り組み、学年や年齢の壁を越えた「縦のつながり」が出来、中学生が小学生に優しく教える微笑ましい場面が活動の随所で見られています。
2 函館スキッパーズ深堀	7	6	北海道函館市	自然観察と自然と遊ぶことを目標に、無理をせずに自然と仲良く遊び勉強させてもらっています。
3 日野沢自然クラブ	8	10	岩手県久慈市	本校では、平成7年度からハナカジカの保護活動に取り組み11年目となります。平成10年度には、人工孵化に成功しそれ以来ハナカジカの卵の人工ふ化、放流を行っています。その活動母体は、森林愛護少年団として、地域の協力も得て取り組んでいます。平成14年から「エコクラブ」に加入し、より広い視野で環境について考え活動を続けています。
4 みずさわエコキッズ	62	3	岩手県奥州市	自治体(奥州市)が募集したクラブです。活動は、4年目を迎えています。今年は、小学3年生から6年生まで62人もの登録がありました。豊かな自然がたくさん残っている市内小黒石地区を活動フィールドに、農業体験、自然体験を通じて身近な環境について学習しています。
5 ハッスル10	10	1	茨城県土浦市	5年生10人のクラスです。近くに穴塚大池があり、1年生の時から観察活動をしています。
6 ヤマメクラブ	20	11	群馬県甘楽郡	清流の女王である「ヤマメ」がいつまでも住める環境を願い、清掃活動、水生生物調査を続けて10年目になりました。毎年テーマを決め、地域の特産であるそば栽培やかいこの飼育観察、廃油せっけん作りや自然観察会など、体験を中心に活動発表を行っています。今年度は、月1回、地元を流れる雄川の水質、水生生物調査を行い、四季を通しての変化を調べています。
7 黒浜元気キッズ	9	3	埼玉県蓮田市	自然が多く残っている地域であるため、子ども達は、あたりまえに鳥や虫などとふれあい、名前を知っていることもある。しかし、年々みられるトンボの数や種類が減ってきていることを肌で感じているようだ。メンバーは兄弟で入っている子もいて、子ども同士仲良く教えあっている。サポーターより子どものほうが詳しくって、教わることが多い。
8 ザ・すぎちゃんズ	5	1	埼玉県鴻巣市	今番中学2年のクラスメートの女子2名が加わり中2が3人、高校生2人の女子ばかりのチームでスタートしました。2年半前から続けている野生生物の観察の延長線と考え、この企画に応募しようと決めました。よろしく願います。
9 竹の子エコクラブ	40	20	埼玉県入間郡	地域の自然体験を中心に活動しています。生き物観察もその中に入っています。他には、伝統農業文化である雑木林の落ち葉はきと、その落ち葉を活用したさつま芋作りを通して、循環するエコリサイクルを体験学習しています。歴史民俗資料館でのおもちつきなど地域を楽しみ、地域とのつながりを深めています。
10 「平野の森」こどもエコクラブ	12	6	埼玉県狭山市	地域の森(「平野の森」)で保全活動を行っている大人のボランティアグループと共に、森の保全に必要な整備作業をしながら、四季を通して、植物、樹木、鳥、昆虫を観察することで、森に親しみ、森を知る活動をしています。毎月第4日曜日を活動日と決めて活動し続けて、今年で5年目になります。
11 美しき地球号依知南環境守り隊	15	1	神奈川県厚木市	新メンバーも加わり賑やかになりました。近くの公園に花壇を作り皆で世話をしています。生きものも腐葉土たっぷりです。悲鳴あり歓声あり楽しく活動しています。夏休みの課題もそれを題材に作文・ポスター・絵画と提出しています。評価される事もあり活動の励みとなって益々頑張ってしまうメンバーです。
12 野島自然観察探見隊	124	15	神奈川県横浜市	横浜の海岸線約134キロのうち唯一残された自然の砂浜「野島海岸」の自然環境を守ろうと、毎年「海浜清掃」を行っています。砂浜での活動のほか、毎月1泊2日のプログラムで野外活動・自然観察・クラフトなどを体験するほか、県外での長期キャンプやスキーキャンプなどにも取り組んでいます。
13 桃李ふるさと探検隊	20	2	富山県下新川郡	平成17年4月29日(みどりの日)に、入善町立桃李小学校の環境活動に特に関心のある児童有志により結成されたこどもエコクラブです。身近な自然環境を生かしたフィールドワークを数多く実践し、自然環境保護や町の環境美化活動に取り組んでいます。
14 大岡なかよしクラブ	14	9	静岡県沼津市	黄瀬川レンジャーごっこをしています。
15 常南はたらきパチクラブ	8	1	愛知県岡崎市	「常南環境見守り隊」を1年間のテーマとして、学区の自然を愛し、よりよい環境をつくっていくことを目標に活動しています。常磐南学区は、市街からそんなに離れてはいませんが、山や川に囲まれているので、虫や鳥、緑がいっぱいです。野生生物に遭遇することもあります。また、全校で田植えをしたり、ワラビ採りをしたり、自然薯を育てたりしており、子どもたちは日常的に自然体験をしています。そんなあたりまえにある自然のなかで、改めて「環境」を見つめようとしています。

クラブ名簿

	クラブ名	人数		クラブ所在地	クラブ紹介
		メンバー	サポーター		
16	ササユリ	13		3 愛知県瀬戸市	瀬戸市掛川小学校は山間部にあり、全校19名の小さな学校です。地域には国の天然記念物であるオオサンショウウオが生息しています。地域の人と一緒に山からの水を利用して、米を作ったりして食について考えたり、運動場の片隅の湿地の昆虫や植物を観察して地域の自然についても学んでいます。隣接する国有林をかり、山の中にテラスを作り山の中で遊んだり、林業の学習もしています。ササユリとい名は学校の周りがあることから名付けられました。
17	東広瀬環境レンジャー 東広瀬里山探検隊(2クラブ連合)	21		2 愛知県豊田市	東広瀬環境レンジャー(東広瀬小学校自然環境クラブ4,5,6年生12名)と、東広瀬里山探検隊(5学年児童11名)の2クラブ連合です。環境レンジャーは月2回のクラブ活動の時間に、学校周辺の矢作川とその支流や、池等の水質や水生生物の調査を行ったり、森や水田等でバードウォッチングを行ったりして、地域の自然環境を調べています。里山探検隊は、総合的な学習の時間を使って地域の里山環境について植物、動物、人との関わりなどを調べています。調査したことを地域の環境保全の活動に生かしたいと考えています。
18	ちょこっと隊&山背古道そば探検隊合同チーム	30		18 京都府相楽郡	ちょこっと隊:自然に関心のある地域の子どもたちが集まって町探検時に意識的に生物観察を行っています。 山背古道そば探検隊:そばの種まきから収穫、そば打ちまで体験しています。
19	もっちゃんず	2		2 兵庫県明石市	毎週土日は、家族で近くだけでなく兵庫県内(三木、神戸、三田、加東市など)の自然観察イベントに参加しています。
20	グリーンキッズ	8		8 兵庫県芦屋市	小学1年から中学3年までの8人がそろうことはまずありませんが、1人1人ができるときに、できることをしながら地球温暖化防止や自然観察の活動を続けています。
21	かおるヨーケンスポーツクラブ	8		2 兵庫県神戸市	普段は体力づくりを中心に活動しています。月に1~2回程度、こどもエコクラブ活動として、地域の清掃や、自然の中でのネイチャーゲーム等を行っています。
22	GO!GO!グリーン	2		1 兵庫県姫路市	学校で環境学習をする中で、身近な環境、地球規模の環境の現状、未来について考えるようになり、2年前にエコクラブに入った。「身近な自然に親しもう」「ごみを減らそう」などをテーマに活動を続けている。昨年はトンボを季節ごとに観察、ヤゴ調査などをした。昆虫が好きでかぶと虫の幼虫を飼育、ごみを減らしたいということからミズコンポストを始め、それを利用し、花や野菜を育てている。姫路の環境フェスティバルや全国フェスティバルに参加し、自分たちの活動を通して学んだこと知らせたいことを発表してきた。
23	にこちゃんず	3		2 岡山県赤磐市	私達、にこちゃんずは、家族5人のエコクラブです。自然観察を中心に活動しています。自然を大切にすること、自然をよく知ることから始まること、と思い、各種観察会に参加しながら、自主活動を行っています。また、自然保護のボランティア活動にも、参加しています。
24	善通寺こどもエコクラブ筆岡	10		4 香川県善通寺市	「地域の自然を知ろう」と自然のしくみや成り立ち、人との関わりを学んでいます。森林や生物、土壌や樹木などの調査をしています。他のこどもエコクラブとの交流をとおして、情報交換をしています。弘田川、金倉川については、7年前から河川の生き物調査、景観マップなどの作成をしています。第7回ココ・コエ環境教育賞、平成15年度環境大臣賞環境保全功労賞、野生生物保護奨励賞、第17回「星空の街・青空の街」全国協議会会長賞～天の川賞受賞
25	カプトガニーズ	2		1 福岡県北九州市	家族3人のクラブですが、自然を観察する心から「自然を大切に守りたい」という気持ちが育ってきたので、これからはもっと視野をひろげ、活動をひろげていきたいと思い、今年2月に登録した新しいクラブです。メンバーはまだ2人ですが、はりきってがんばります!
26	イオン都城こどもエコクラブ	18		3 宮崎県都城市	ジャスコ都城店周辺の小・中学生18人が集まり、月に1回活動しています。昨年度は壁新聞が宮崎県代表に選ばれ、今年度はさらに全員やる気を出しています。活動は3年目です。
27	きよたけこどもエコクラブ 馬っ子クラブ	10		2 宮崎県宮崎郡	きよたけこどもエコクラブ、馬っ子クラブは宮崎の南部の平野にある小さな山の存在する農業地帯です。近所には自然が豊かでいつもエコクラブといっでは遊んでいます。
28	阿室っ子E倶楽部	5		3 鹿児島県大島郡	今年5月に発足した鹿児島県の奄美大島にある阿室中学校全員による倶楽部です。僻地極小規模校ではありますが、「奄美の自然を守るう」を合言葉に世界遺産に匹敵するこの奄美大島の自然を後生にいかに大切に守り伝えていけるかを課題に様々な活動に取り組んでいけたらと考えて取組を始めています。外来種の移入問題を始め、身近な自然の探査からスタートしています。また校内には田圃をはじめとした阿室ビオトープの造成も行っています。

平成 18 年度 EXTEND2005 における身近な野生生物の観察事業について  
(事業の目的)

環境省環境安全課

1. 目的

- (1) こどもたちの生態系に関する関心・興味を養う。
- (2) 生態系の多様性を学ぶ。
- (3) 野生生物の異変の把握のためには継続的な調査、広域的な調査が必要であることを学ぶ。

2. 調査内容

(1) 参加グループについて

現在、こどもエコクラブに登録のあるクラブで、次の条件を満たすクラブを対象とする。

こどもたちが中心となって、普段から生き物の観察を行っていること。

平成 18 年 7 月～11 月の期間、3 回以上生き物の観察、報告を行うことができること。

(2) 調査について

目的に照らし、7 月～11 月の間に少なくとも 3 回以上の調査を実施すること。

(3) 調査計画について

調査計画は、各クラブで事前に作成したものをもとに、本日の打合せ結果を踏まえ、7 月 7 日(金)までに提出すること。

(4) 調査報告について

調査報告は、中間報告(9 月 8 日(金)まで)及び最終報告(12 月 4 日(月)まで)の 2 回提出すること。提出にあたっては各提出様式に沿った形で報告すること。

(5) 専門家によるアドバイスについて

本事業では、調査に関する疑問等が生じた場合、7 名の専門家(指導委員)から、アドバイスを受けることができる。アドバイスを求める場合は、事務局を通じて行うこと。

<指導委員>

青山 博昭	残留農薬研究所毒性部副部長兼生殖毒性研究室長
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
斉藤 秀生	自然環境研究センター
戸田 光彦	自然環境研究センター
花里 孝幸	信州大学山地水環境教育研究センター長
福井 行雄	広島県立広高等学校教諭
安間 繁樹	農学博士(哺乳動物生態学研究者)

### 3. ExTEND2005 における「身近な野生生物の観察」事業の位置づけ

私たちの身の回りには、多様な生物種が生息しており、一方、私たちの人間活動によって様々な環境リスクが発生している。その一つに化学物質による環境リスクが挙げられる。

化学物質による環境リスクは人への影響だけでなく、生態系への影響も含まれている。これからは、人への影響だけでなく生態系への影響についても子どもたちや一般市民の方々に知ってもらう必要がある。

そのためにはまず、身近な野生生物をじっくりと観察することが必要となる。そこから、そもそも生物には多様性があるということ、そして生物個体は複雑な生態系のバランスの中で生きていることを体得してもらいたいということで、この事業はスタートした。体得してもらいたいポイントは下記の2点である。

- (1) 生物にはバリエーションがあり、多様で複雑な生態系の中で生物は生きていること。
- (2) 生物におけるバリエーションの要因としては、化学物質の影響も含め、様々な因子が考えられること。

この2点を体得し、きちんとした生物への理解をもった上で、化学物質が生態系に与える影響を考えることができる人を増やすことが、この事業の最終的な目的である。

内分泌かく乱化学物質問題のみならず生態系を視野においた、  
化学物質問題全般の原点である野生生物における異変把握のための身近な野生生物の継続的観察

#### 参考

環境省ホームページ内に、この事業も含む、化学物質の内分泌かく乱作用に関する取り組み全体についての方針を記載していますので、ご参照下さい。

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-ExTEND 2005-」

<http://www.env.go.jp/chemi/end/extend2005/index.html>